

科目名	日露関係論	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	鈴木 佑也		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-330004	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	文化及び芸術に焦点をあてて日露関係・日露交流の歴史及び現状とその相互影響/関係を概観する。 受講者が世界近現代史および日本近現代史の基礎知識を持っていることを前提として講義をおこなう。 都市や地域の特性を知り、文化全般の交流の歴史を学ぶことで地域文化研究や表象文化研究の方法についても考える。				
学修到達目標	20世紀の日露（ソ連）文化相互関係を体系的に説明できる。 日露（ソ連）がお互いをどのような関心のもと交流を深め、様々な文化事象が形成されてきたのかという点を整理できる。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	ガイダンス 総論：「交流」の意味―レフ・メーチニコフを例に (詳細は下記のレジュメ参照)
第2回	語学教育：日本のロシア語教育、ロシアの日本語教育はいつから始まったのか？ (詳細は下記のレジュメ参照)
第3回	文学：二葉亭四迷とボリス・ピリニャーク、レフ・トルストイと「白樺派」 (詳細は下記のレジュメ参照)

第4回	演劇：小山内薫の新劇とスタニスラフスキーシステム (詳細は下記のレジュメ参照)
第5回	舞踊：パレエと歌舞伎 (詳細は下記のレジュメ参照)
第6回	演芸：身体表現と笑い—ポリショイサーカスと木下大サーカス (詳細は下記のレジュメ参照)
第7回	音楽：山田耕筰による『ペチカ』と「日露交歓交響管弦楽演奏会」、三波春夫のシベリア抑留体験 (詳細は下記のレジュメ参照)
第8回	絵画：アイコン画とアヴァンギャルド 絵画—山下りんとダヴィド・ブルリューク、ヴァルヴァラ・ブブノヴァ (詳細は下記のレジュメ参照)
第9回	映画：エイゼンシュテインと黒澤明 (詳細は下記のレジュメ参照)
第10回	建築：大阪万博 (EXPO '70) における新しい都市の登場—磯崎新とメタボリスト、ソ連の若手建築家グループ「NER」 (詳細は下記のレジュメ参照)
第11回	食文化：洋菓子のロシア、米料理の日本 (詳細は下記のレジュメ参照)
第12回	宗教：ロシア正教会の日本への影響 (詳細は下記のレジュメ参照)
第13回	都市計画：日露の開拓地—満州 (詳細は下記のレジュメ参照)

第14回	都市：新潟とウラジオストク (詳細は下記のレジュメ参照)
第15回	予備日(授業進度の調整のため) (内容にかかわらず授業は実施します)
第16回	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。予め配布された資料に目を通し、関連用語を各自調べて置くこと。
【復習】時間・内容	2時間。配布資料の見直しと不明点や理解できない点を整理し、調べる。授業後のコメントシートで挙げられた疑問点を次の授業冒頭で説明。

成績評価	
評価基準・方法	評価の目安：ペーパー課題(レポート)70%、授業態度30% 学期末のペーパー課題(レポート)で成績を評価する。 授業への参加度は出席回数をもとに評価。 (出席管理システムを利用する) 定期試験はありません。 後日、ポータルサイト上でペーパー課題の講評をおこないます。
フィードバック方法	授業後のコメントシートで挙げられた疑問点を次の授業冒頭で説明。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	
教科書/参考書	<p>常時使う教科書はない。 レジュメほか下記の資料はご自分でダウンロード・印刷して持参すること。</p>
受講上の留意点等	<p>参加者に求めるものは主体性と積極性である。 受講者がロシア近現代史および日本近現代史の基礎的知識を持っていることを前提として講義が行われる。 本学の「現代ロシア論」および「日本史（近現代）」を学修済みであることが望ましい。</p>
JABEE	